

Shiro Kobori

小堀四郎《無限静寂（宵の明星—信）》1977年



Masanari Murai

村井正誠《二人》1984年



ミュージアムコレクション I

それぞれのふたり

小堀四郎と 村井正誠

Museum Collection I

“Two Artists’ Works” Series
Shiro Kobori and
Masanari Murai

2018年4月14日 | 土 |
—— 7月8日 | 日 |

会場：世田谷美術館 2階展示室

開館時間：10:00～18:00（最終入場は17:30まで）

休館日：毎週月曜日 ただし、4月30日（月・振替休日）は開館、5月1日（火）は休館

観覧料：一般200円（160円）、大高生150円（120円）、65歳以上／中小生100円（80円）

*（ ）内は20名以上の団体料金

*障害者の方は100円（80円）、ただし小・中・高・大学生の障害者の方は無料。

介助者（当該障害者1名につき1名）は無料

*小・中学生は土、日、祝・休日は無料

*同時開催の企画展チケットで本展をご覧ください

世田谷美術館
SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2
TEL:03-3415-6011（代表）
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>
展覧会のご案内 03-5777-8600（ホラーダイヤル）

それぞれのふたり

小堀四郎と村井正誠

“Two Artists’ Works” Series
Shiro Kobori and Masanari Murai

20世紀のはじめに生まれ、90余年の生涯を全うしたふたりの画家、小堀四郎(1902-1998)と村井正誠(1905-1999)。

ふたりは同じ時代を生き、奇しくも同時期にパリで学んでいます。互いに深く交流することはなく、小堀は具象、村井は抽象と、それぞれ異なる表現で創作を重ねました。小堀は1935年の帝展改組を機に官展を離れ、以降、孤高ともいえる道を歩みます。いっぽう、村井は、当時まだ日本では馴染みの薄かった抽象表現の道を進み、難渋しつつも、戦後はモダンアート協会を設立するなど、自ら活動の場を切り拓いていきました。画壇に属さず、作品を売ることもしらず、ひとり制作に打ち込んだ小堀と、画家仲間とともにグループを設立して淡々と作品を発表した村井の生き方は、対照的に見えながらも、共通した時代の陰影を感じさせます。

長年にわたって世田谷にアトリエを構えたふたりの画家の諸作品を通じ、大きな戦争を経験し、価値観が多様化していく社会のなかで、それぞれが独自の美学を語り尽くそうとした創作の軌跡をご覧ください。

また、小コーナーでは、世田谷に在住し、2017年に逝去した舟越直木(1953-2017)を追悼し、その彫刻やドローイングを紹介します。



小堀四郎《青衣の画家》1928-1933年頃



小堀四郎《一つ星》1955年



小堀四郎《冬枯れの美》1986年



小堀四郎《鶴川風景》1944年



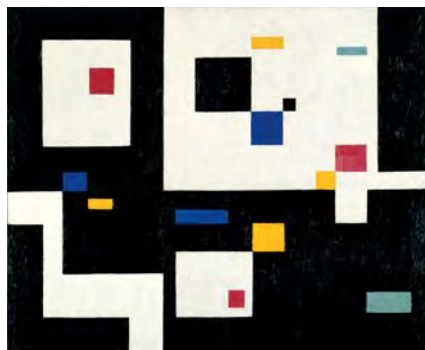
村井正誠《大覚寺》1992年



村井正誠《不詳(パンチュール)》1929年



村井正誠《聖母と天使達》制作年不詳



村井正誠《四つのパンチュール No.1》1940年

小堀四郎 | 1902-1998

1902年7月20日、愛知県名古屋市に生まれる。1921年、上京し安田稔、藤島武二に師事。翌年、東京美術学校(現東京藝術大学)西洋画科に入学。1927年、同校を卒業し研究科に入学。西洋画科の同期と結成した「上社会」の第1回展に出品。1928年、渡仏。ルーヴル美術館でレブランチ、ドーミエ、コロワの模写に励みながら、アカデミー・ド・ラ・グランド・シヨミエールで人体デッサンを学ぶ。1933年、帰国。1934年、森鷗外の次女で随筆家の杏奴と結婚。同年、世田谷区梅が丘にアトリエ兼自宅を構える。1935年、藤島の助言を受けて官展を離れ、以後「上社会」以外の団体には属さずに制作を続ける。1945年、一家で長野県茅野市蓼科高原に疎開。終戦後も1955年まで同地に残り、農耕生活を送りながら制作に励む。1976年、東京大学のイラン・イラク学術調査団に同行し、帰国後に三部作《無限静寂》を制作。1991年、中村彝賞受賞。1998年8月9日逝去。

村井正誠 | 1905-1999

1905年3月29日、岐阜県安八郡大垣町(現大垣市)に生まれる。1924年、川端画学校洋画科に通う。1925年、文化学院の大学部美術科に入学。石井伯亭や有島生馬らに学ぶ。1928年、渡仏。1930年と31年にアンデパンダン展に出品。1932年、帰国。独立美術協会を離れ、1934年、新時代洋画展を創立。1937年、自由美術家協会を創立。1938年、母校文化学院の講師となる。翌年、世田谷区中町に転居。1950年、山口薫、矢橋六郎らとともにモダンアート協会を創立。1954年、武蔵野美術学校(現武蔵野美術大学)本科西洋画の教授に就任。1963年、第7回サンパウロ・ビエンナーレに出品。1967年の第9回にも出品。1975年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科教授を退任し、同大学名誉教授となる。1986年、パリ、ポンピドゥー・センターで開催された「前衛芸術の日本 1910-1970」展に出品。1998年、中村彝賞受賞。1999年2月5日逝去。

[同時開催企画展]

- ◆ 人間・高山辰雄展——森羅万象への道
2018年4月14日(土)～6月17日(日)
- ◆ 没後40年 濱田庄司展
大阪市立東洋陶磁美術館 堀尾幹雄コレクションを中心に
2018年6月30日(土)～8月26日(日)

[アクセス]

- 東急田園都市線「用賀」駅下車 北口から徒歩17分もしくは美術館行バス(A「美術館」)下車徒歩3分
- 小田急線「成城学園前」駅下車 南口から渋谷駅行バス(B「砧町」)下車徒歩10分
- 小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バス(C「美術館入口」)下車徒歩5分
- 来館者専用駐車場(無料、60台) 東名高速道路高架下 厚木方面側道400m先。美術館まで徒歩5分。

